

「ボレーシエ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2025年4月15日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

ロシアのウクライナ侵攻から3年、 名古屋市でも響く 戦争反対の声・こえ・コエ 一時停戦なるか？



2022年2月24日の突然の爆撃、いえ、ウクライナの戦争は、さかのぼること8年の2014年から続いていました。

さらに3年、多くの命が失われ、住宅や病院、学校、国土の破壊が続いています。

ウクライナの平和は、ウクライナの主権と共に保証されねばなりません。

<2025年2月24日 名古屋市栄にて>

(写真は日本ウクライナ文化協会・JUCAのホームページから許可を得て転載しています)



東日本大震災・福島原発事故から 14 年、名古屋でも犠牲者追悼式

@鶴舞公園

去る 3 月 11 日(火)に、2011 年 3 月に発生した東日本大震災・福島原発事故の犠牲者追悼式が、名古屋市・鶴舞公園普選記念壇で行われました（主催:同追悼式実行委員会）。

今回は一日中降りしきる雨の中、午後の部(14:00～)、夕方の部(17:00～)を合わせて約 400 人の広域避難者、市民が集って犠牲者を悼みました。発災時刻に合わせた黙とう、被災 3 県知事のメッセージや実行委員会の宣言、記帳、献花を捧げました。渥美半島から届けられた黄色い菜の花が、雨にけぶる会場に明るい色を添えました。午後の部ではゴスペルグループの鎮魂歌が、夕方の部では高校生たちによる

メッセージや「花は咲く」が歌われました。参列者からは、「14 年経っても、昨日のここのようによみがえる」、「福島原発事故の影響は、原発の廃炉、汚染土のやり場、汚染水等、まだまだ何も解決していない」、「災害は誰にでも起こりうる」等の声が聞かれました。



ウクライナから福島へのメッセージ

今日、全世界は、東日本大震災、津波と福島第 1 原発事故の日を迎えます。

日本の歴史を変えた悲劇から 14 年が経ちました。自然の猛威を現代の文明に知らしめた惨事でした。私たちは皆、これらの悲劇的な出来事を目撃者です。もっとも発達した経済の一つ[である日本]が、私たちの見守る前で、福島に出現した自らのチェルノブイリと闘いました。

私たちは日本国民に連帯し、彼らを支えます。このようなことが二度と起こらないようにと、神に祈ります。

今日、私たちは改めて、この悲劇の中で亡くなった人々を追悼し、頭を垂れます。

亡くなった方々が、永遠に人々の記憶にとどまりますように。原子力と闘い、生活を再建した人たちに、永遠の荣誉と敬意が捧げられますように。
ウクライナは皆さんと共にあります！

慈善基金「チェルノブイリの人質たち」のメンバー全員と、

ジトーミル州の全住民に代わって

イエウヘーニヤ・ドンチェヴァ



岐阜県山県市図書館にて開催された平和学習展（1/13～2/4）で、 戦時下のウクライナの子どもたちの絵画が展示されました。

～訪れた中学生の感想文をご紹介します～



ウクライナの子の描いた作品を見て、実際に起きている惨状を真に受け止めて、ニュースだけでは分からない事も知る事が出来た。僕たちに教えるために、危ない環境なのに絵を画いてくれて本当に有難う。本当に、本当に頑張ってください。無責任な言葉かもしれないけれど、許して下さい。

作品を見て感じた事は「戦争はやはり怖い」という事です。作品は兵器について描かれているのも多くて、「人類はなぜ人を殺す道具を作ってしまったのだろう」と思いました。敵（ロシア）側の視点の作品があって、ウクライナ兵を狙っている、という場面だったけど、その兵が一般人（家族？）と抱き合っている、という作品で、こういうのを本当に見たロシア兵は撃てないんだろうな、と思いました。その作品を見て「兵も人なんだ」という気持ちがより一層あふれました。早くこんな戦争は終わって欲しいと思いました。

私は、戦時下のウクライナの子どもの作品を見て、今、自分たちが書いている間にも、ずっと続いていると思うと恐ろしい気持ちになります。6歳の子から16歳の子まで、見て現状が良く伝わって、心が痛くなり悲しいです。少しでも早く戦争が終わって、ウクライナの子ども達やお母さん、お父さん、もしくはお腹の中に赤ちゃんがいる人も、平和になって幸せに暮らして欲しいです。私たちが今、何をしたら、どうしたら、もっと早く、少しでも幸せになるのか。とても深く考える事が出来た時間だったと思います。何かお手伝い出来るならしたいです。

「子どもの家」の支援を始めます

2025年度も真如苑様よりウクライナ支援へのご寄付がいただけることになり、ロシア軍による爆撃で大きな被害をこうむり続けているキーウ市の市民団体「ゼムリャキ/未来」を通じた支援に使わせていただくことになりました。

停戦が言われ出しても、たびたび爆撃が報じられ、犠牲者が増え続けています。「ゼムリャキ/未来」では代表のタマーラ・クラシツカさんはじめ、自身の家族の息子や夫が前線で戦って負傷したり、いつとない爆撃により眠れない夜を過ごし体調を崩しながらも、多くの子どもたちや国内避難者などの支援活動を行っています。以下は、タマーラさんからの現地情報です。



左から2人目がタマーラさん

「子どもの家」(キーウ市の北方チェルニヒウ州)には、122名(2025年2月24日現在)の子どもがいます。孤児、親権を放棄された子ども、国内避難民やロシアに隣接する地域の子ども、戦死した軍人の子ども、子だくさんの家庭の子どもたちです。ロシア軍の軍事侵攻と絶え間ない爆撃のため、多くの家族は住居を失い、仮住まいをしています。国の財政事情で「子どもの家」への経費支給は減り、子どもたちの医薬品や衛生用品、衣服や靴等、改修費、寝具やベッドも更新が必要です。教育のために、文房具や機器が非常に求められています。

【ジトーミル市 ドンチェヴァさんのメール 2025 1/17~2/14】

(1月21日) 名古屋滞在のプランをお知らせいただきありがとうございます。学校訪問について、私は「戦時下の学校の様子」について、プレゼンテーションを準備しています。

大事なのは、皆さんにお会いできるということです...。私にとって一番心を動かされる出来事です。戦争の最初の日々、あれほど私をサポートして下さったのは、皆さんなのですから。

(2月14日) 私はもうジトーミルに戻って、ひと息つきました。旅行は非常に有益で成功を収めましたが、スケジュールは過密でした。私は1週間日本の学校で報告をし、子供たちと合流しました。全てうまくいき、子供たちは山のような印象とアイデアを得ることができました。

私は、粉ミルクキャンペーンの仕事に取り掛かりました。

【キーウ市 タマーラさん(ゼムリャキ/未来)のメール 1/16~2/26】

(1月16日) 私は、新年の祝日を前に心臓が負担に耐えられず、体調を崩して入院しました。今は少しよくなり、リモートで仕事をしています。スタッフたちも頑張っている仕事をしています。活動については全て話し合っています。

クリスマス・カードを受け取りました。ご挨拶



タマーラさん(左端)と子どもたち

と感謝をお伝え下さい。近日中に子供たちに渡します。

(1月29日) 10個の捨てカイロ入り小包を受け取りました。心からの感謝を申し上げます。

(2月13日) 息子は前線から配置換えになりました。彼は膝に負傷して手術を受けます。より楽な職務で軍の仕事を続けます。彼が安全なところで、ほっとしています。1年以上、彼は仲間たちと湿気が多く寒い地下室で寝泊まりし、絶え

間ない爆撃にさらされながら、危険の多い課題をこなしていました。私は神経がもたず、体調を崩してしまいました。

私たちはこの恐ろしい状態に間もなく終わりが来る、という希望を頼りに生きています。

(2月26日) 私たちの地区には入院できる病院はなく、外来病院のみです。多くの子供たちが第1小児外来病院で治療を受けています。

戦争が始まって、医師の仕事の時間帯は空襲警報次第になりました。医師も患者もサイレンの音が鳴ると、診察室から3方壁に囲まれた部屋に移動するか、最寄りのシェルターに行かねばなりません。外来病院にはシェルターがありません。医師たちは停電、断水、暖房がない非常事態の下で働きました。この3年間、頻繁な爆撃による絶え間ないストレスにさらされ、親も子供も健康状態が悪化、子供たちは怯え神経質になっています。

外来病院で必要なのは、医薬品、ヒーター、プリンターとPC、本、文房具等です。

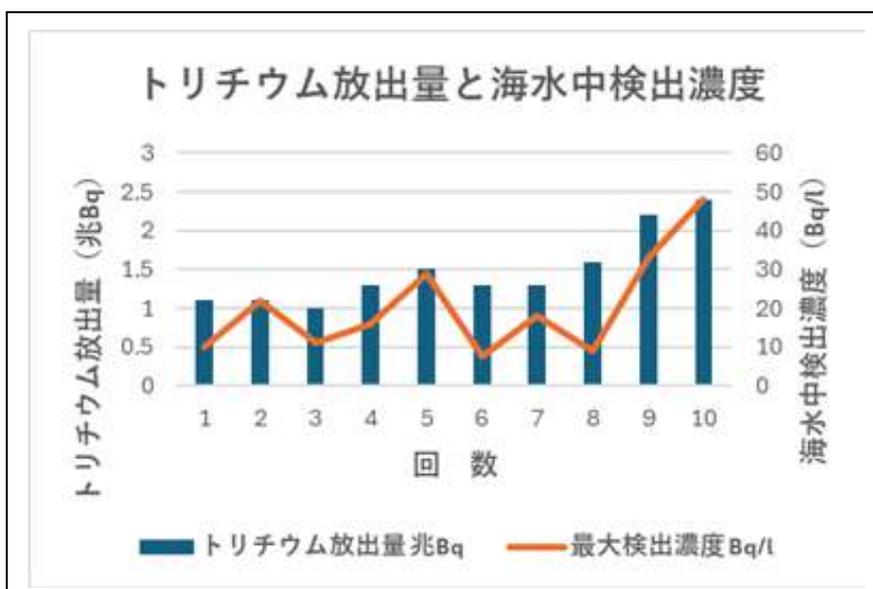
トリチウム汚染水の今

福島原発事故から15年目を迎えた。廃炉の入り口であるデブリ取り出しも一向に進まない中、汚染水の海洋放出は着々と行われており、3月中に11回目の放出が終わる予定である。加えて、先号でも触れたが、今年度から膨大な量の汚染土壌の全国拡散が始まる。条件次第では汚染土壌を受け入れてもよい、という自治体が秋田、千葉、兵庫、奈良、宮崎など5県ある。反対を抑えるために交付金で釣るのは目に見えている。高レベル廃棄物の処分と同じパターンである。そもそも事故を起こしたのは東電であり原発を推進したのは国である。「福島原発事故の責任が東電にも国にもない」という最高裁判決はこの国の愚かさを象徴している。このままでは海も国土も放射能まみれの日本になる。

汚染水放出の現状

2023年8月に始まったトリチウム汚染水の海洋放出はこの3月で11回目を迎えている。毎回7800m³放出するがトリチウムの放出量は徐々に増えている。1回目は1.1兆Bqだったが、10回目（昨年10月17日～11月4日）は2.4兆Bq、11回目は3兆Bqの予定である。その結果、近海の海水中濃度は（排水口から3Km）次第に上がっている。1回目は1リットル当たり10Bqで、ほぼ検出限界に近かったが9回目は33Bq、10回目は48Bqで明らかに自然界濃度より高く（約5倍）、次第に上昇している。これは筆者が以前指摘したように、放出当初はマスコミ報道も考えて少なく見せ、世論が気にしなくなったら放出量を増

やす、という東京電力の画策である。これまでに放出した汚染水の量は47,140m³、全体の28分の1である。単純計算ではあと40年以上かかる。加えて今も毎日80m³の汚染水が発生している。トリチウム量で見ると総量860兆Bq、これまでに放出した量は10.3兆Bqで全体の83分の1に過ぎない。現在の濃度で放出を続ければ280年掛かる。勿論、半減期〈12.4年〉もあるので当然これよりは減るが、それでも100年以上はかかる計算になる。従って、東電の予定通り30年間で全て放出するとなれば、今後更に高濃度で放出せざるを得ない。数年後には魚の汚染も増えるだろう。



国も東電もすべてはその場しのぎの事故対策であり、市民や未来世代の事など眼中にない。汚染土壌の拡散も同じような展開になるだろう。海洋放出の費用は当初34億円で最も低コストと言ったが、この2年半で既に430億円（東電）かかっている。漁業者への支援は800億円、合計1200億円、原資は全て消費者の税金と電気料金から支払われる。

（3月13日 河田）

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆2月 寄付/376,271円、会費/69,000円
- ◆2024年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
3,393,622円（2月末）
- ◆2024年度ウクライナ救援基金 1,748,337円（2月末）
- ◆ウクライナ救援基金累計 27,687,200円
（2022/3/7～2025/2/28）
- ◆会員数 170名
- ◆ポレシエ読者数 669名
～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先
三菱UFJ銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- *クレジットカードでも受け付けております
（ページ下のQRコードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

退職のご挨拶

門田一美

いつも会員として、また温かいご寄付を通して活動を支えてくださり、ありがとうございます。2022年5月より事務局で勤務してまいりましたが、今年2月を以て退職させていただくこととなりました。

チェル救とのつながりは、前職の「名古屋 NGO センター」で活動を始めた学生時代（約20年前…）に、イベントでお話を聞いたことから始まります。原発、ウクライナ、福島、長野での再エネの取り組み等々、たくさん学ばせて頂きました。「フクシマ講座」のボランティアとして一緒に講座の企画をさせて頂いたこともありました。そのような流れの中で前任の兼松さんから会計担当を引き継ぎました。

その矢先におきたウクライナ侵攻。チェル救での勤務と同時に、日本へ避難してこられたウクライナの方々の支援にも携わることになり、ウクライナへ行ってみたいという気持ちは高まるばかりです。事情により退職いたしますが、今後もウクライナへの関わりは続けていきたいと思っておりますので、また皆様とお会いできましたら幸いです。



1/30、ホステージ基金ドンチェヴァさんを囲んで（後列左端が門田さん）@事務局

2025年度 チェルノブイリ救援・中部 通常総会のご案内

日時 6月14日(土) 午後2時～4時

会場 なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや 研修室

（名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ12階 / 地下鉄伏見駅5番出口より南へ徒歩7分、6番出口は休止中）

昨年は、異例なことではありますが、能登地震の被災地を支援する団体への支援を呼びかけました。

ウクライナとロシアの戦争の行方もわからず、皆様からは引き続き寄付をいただいております。

総会のあとは、昨年の活動や現地の状況を報告させていただきます。会員でなくても参加できます。ぜひお越しください。



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館5B

TEL&FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00～15:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

